

現在、お使いの配合飼料は 安心して家畜に給与できます。

今回の福島第一原子力発電所事故に際し、現在、お使いの配合飼料の安全性に問題は
ありません。配合飼料の安全性に問題が生じるとすれば、配合飼料中に福島原発から
放出された放射性物質が混入した場合だけです。配合飼料やその原料に放射線が当
たったかどうかは安全性には影響しません。配合飼料や原料に放射線が当たっても、
放射能を帯びたり、有害なものに変わることはないからです。

その観点から配合飼料の安全性を確認すると、

- ① 配合飼料の原料はほとんどが輸入品です。また、商系の飼料製造工場は福島県内
にはありません。ですから福島原発事故による直接的な影響は受けておりません。
- ② 配合飼料は、屋内に設置された大型の加工機械で製造されています。飼料原料が
製造ラインに入ると、外気にはほとんど触れません。
- ③ 配合飼料の主原料はトウモロコシで、その他にムギやコメが使われています。こ
れらは基本的に輸入品です。一部、国内で収穫されたコメも使われていますが、震
災前に収穫され、屋内の倉庫で密閉保管されたもので、汚染の心配のないものです。
- ④ 大豆油かす等の副産物は、食用として輸入された油糧穀物を国内の加工業者が絞
り取った残りかすで、それを飼料製造業者が飼料の主原料の一つとして使用してい
ます。もともと食品として管理されていることから安全性は確保されています。
- ⑤ 飲用水が放射能に汚染されているとの報道がありますが、基本的に配合飼料の製
造工程で水は使用しません。ただし、ペレットやフレーク状の配合飼料を製造する
際には蒸気を使って加工、成形しますが、仮に蒸気の中に放射性物質が含まれてい
たとしても、蒸気から製品に移行する水分は製品重量の数十分の1～百分の1程度
に過ぎません。そのため、家畜や人体に影響があるレベルに達することはありません。
いずれにせよ、飲用に適さない水を製造過程で使用することはありません。
- ⑥ 配合飼料は大型の加工機械で製造された後、運搬の行程で粉塵等が混入しないよ
う、遮蔽された専用の飼料運搬車や紙袋などの包装容器で畜産農場に運ばれます。
ですから、現在お使いの配合飼料は、引き続き安心してご使用いただけます。

なお、福島原発の事故発生後、屋外に放置されていた稲わら等が肉牛に給与され、
暫定基準値を超過する牛肉が消費されていたことが発覚するなどの問題が生じてい
ます。その後の調査で、農水省や県からの指導も徹底されていなかったことが判明し
たことから、牛肉に限らず、卵や牛乳といった畜産物全体の安全性が懸念される状況
にあります。

こうした事態を踏まえ、配合飼料だけでなく、稲わら等の粗飼料も含めた飼料の安全性について、特に、消費者の方には、稲わら等の粗飼料が豚や鶏にも給与されているとの誤解もあるようなので、以下で基本的な事からも含め補足させていただきます。

- ① 稲わら等の粗飼料は、胃が複数ある牛やヤギ、羊といった反芻動物でなければほとんど消化できません。そのため、粗飼料を消化できない豚や鶏に粗飼料が給与されることはありません。豚や鶏には、それぞれの家畜にふさわしい栄養価を備えた配合飼料だけが給与されています。
- ② 今回の稲わら問題は、原発事故後、屋外に放置されていた稲わらの安全性が国や都道府県により適切に確認されず、牛用の粗飼料として給与、使用されたことに原因があるとされています。そのため現在、お使いの配合飼料は安心して家畜に給与できると考えています。

今後も新しい知見に基づき、適宜、更新してまいります。

なお、「原乳中における放射性物質の検査結果」、「肉・卵中における放射性物質の検査結果」については、厚生労働省が公表した検査結果のうち、原乳及び肉・卵を抜粋して農水省が公表しています。7月13日時点で、原乳は639サンプル、肉・卵は332サンプルが分析されていますので、以下の農水省ホームページをご参照ください。http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/seisan_kensa.html

協同組合 日本飼料工業会

平成23年3月28日

平成23年4月4日改定

平成23年7月25日改定